

令和2年度第3回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和2年6月30日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール2
- 出席者： 理事長 黒田 啓史
理 事 森 一樹，清水 恒広，半場 江利子，松本 重雄，位高 光司，
能見 伸八郎，山本 みどり，白須 正
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則
事務局 折戸経営企画局次長，長谷川担当部長，大島京北病院統括事務長，
濱口経営企画課長

1 開会

2 議事・報告等

(1) 令和元年度 財務諸表等（案）について

資料1に基づき，折戸経営企画局次長から説明
議案のとおり承認された。

- 赤字の大きな理由は何か。また，新型コロナウイルス流行の影響による今後の経営の見通しは。
→ 医業収入は伸びているが，同時に材料費，人件費等の支出も増えており，また，入院治療の必要な重症患者の確保が不十分という構造的な問題が大きい。コロナの影響は4月以降に本格化しており，患者の減少により，大きな減収となっている。
- 外来はかなり減少しているが，治療が必要な方は来院されている。引き続き，重症度の高い患者のかかりつけ医からの紹介獲得に取り組む。
- 一般企業ではリモートワーク等の工夫をされているが，病院として具体的に行った取組はあるか。
→ 市立病院において，薬のみの再診患者への電話再診に取り組んだ。
- 外来が減ったということだが，薬の切れた方など，代替先はあるのか。
→ これまで，投薬を長めに処方したり，電話再診に取り組んできた。市立病院に主治医機能を求める方は多いが，2人主治医制を推進し，逆紹介を増やしていく。
- 京都市からの財政支援は，資料のどの部分か。
→ 「運営費負担金」，「運営費交付金」が該当部分で，感染症医療などの政策医療と病院の設備投資に対するものの2種類の支援を受けている。

(2) 令和元年度 事業報告書（案）について

資料2に基づき，折戸経営企画局次長から説明
議案のとおり承認された。

- 働き方改革に関して，日本の男性の育休取得率は低いですが，市立病院ではどうか。
→ 取得している方もいるが，男性は女性と比較して，割合としては少ない。
→ 診療科にもよるが，医師も取得している。徐々に取得意識を高めていきたい。
- B評価がずっと続いている項目が散見される。重点目標を定めるといった取組をされてはどうか。
→ B評価の中でも，その年ごとにAに近かったりCに近かったりするものもあると思うが，参考にさせていただく。

- 職員満足度の向上と働き方改革の両立は難しい。具体的にどのような取組をされているのか。
- 患者と職員の満足度はリンクしていると考えている。患者満足度調査の手法を、満足度を問うものから経験・価値を問うものへ変更し、回数も増やしており、改善につなげていく。働き方改革ではワーク・ライフ・バランスの視点が大事である。プロセスに戻って改善することで、働き方が変わることもあれば、職員同士の連携が図れたり、医療安全にもつながる。
- 働き方改革は大事であるが、経営とどう両立させていくか。
- 職員が仕事に誇りを持つことが大事であり、職員の満足度が低いと患者の満足度に結び付かない。現場からの声を大事にして、地道に取り組んでいく。
- 市立病院、京北病院間の患者送迎車の利用は増えているのか。
- 実績値としては、元年度は過去最高となる 1,000 人の利用があった。

(3) 監査報告

資料 3 に基づき、長谷川監事から令和元年度事業及び会計について、適切に行われたことを報告

(4) 銀行との融資契約について

資料 4 に基づき、折戸経営企画局次長から説明
議案のとおり承認された。

(5) 収入状況月次報告（5 月分）

資料 5 に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- コロナの影響の中、がんばっているという印象を持っている。第二波への対応も考えているのか。
- 院内から感染者を出さないということが何よりも大切であり、ICT（感染対策チーム）で管理していく。第二波は来るものと思って準備していきたい。
- 京都でも感染者が少し増えており、府の基準では「注意喚起」の段階である。週ごとの判断であり、解除されるかもしれないが、厳重な感染管理を続けていく。

3 閉会